

# 今津赤十字

VOL.21

2014年秋号

## 目 次

巻頭企画	1
診療報酬改定と地域医療に向けての当院の取り組みについて	
地域包括ケア病床のご案内	2
地域医療連携室便り	
ナースのまど	3
福岡県総合防災訓練活動に参加して	4
感染症にご注意!	5
第5回 連携先リレー紹介	6
浜崎地区夏祭りで「地域貢献」	



## \* 病院理念 \*

\* 基本理念 私たちは人道・博愛の赤十字精神のもと患者様に信頼される医療を行います。

\* 基本方針 1. 地域医療

地域の皆様から安心して健康を任される病院を目指します。

2. 全人的医療

病気を治すだけでなく、病める人を癒す全人的医療を提供します。

3. 医療と福祉の架け橋

医療が終わった後も、その方に適した生活を送っていただくためのお手伝いをする医療福祉センターを目指します。



今津赤十字病院

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 診療報酬改定と地域医療に向けての 当院の取り組みについて

2025年に75歳以上の後期高齢者が人口の18%を占めるようになり、日本は超高齢化社会に突入すると言われています。この超高齢化社会に対応するために、現在の医療提供体制を変えていく必要があります。

今回の2014年度診療報酬改定で、2025年に向けた医療提供体制の改革が着実に一步踏み出しました。具体的には、入院医療の見直しとして、7対1入院基本料の改定、地域包括ケア病棟・病床の新設等が行われ、2025年には、現在36万床ある高度急性期病床(7対1)を約半分の18万床に減らし、高度急性期病床からの患者を受け入れて在宅につなぐ亜急性期等病床を現在の2万7千床から約10倍の26万床に増やすようになります。また、高齢の方々が住み慣れた環境で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療と介護の融合化が進められています。

その他に入院患者の在宅復帰、主治医機能の評価、大病院の一般外来の縮小、在宅医療を担う医療機関の確保と質の高い在宅医療の推進等が打ち出されました。

後期高齢者の医療は急性期医療も重要ですが、年齢が上がるにつれて、生活維持や在宅復帰に必要な治療やリハビリを行う、生活支援の医療の比率が高まってきます。この生活支援の医療の担い手としては、かかりつけ医、在宅で病状が悪化したときに入院できる医療機関、急性期の医療機関からの転院患者を受け入れ在宅復帰を目指す医療機関、地域での看取りができる訪問介護ステーション、等があげられます。

当院では今回の診療報酬改定で地域医療を担う医療機関として次の事に取り組みました。



事務副部長兼医事課長  
兼医療社会事業課長

やま し た と し の り  
**山 下 利 典**

## 1. 地域包括ケア入院医療管理料1の取得

- ①平成26年5月1日より算定開始
  - ②急性期医療機関(7対1)より在宅復帰を目指した転院の受け入れ。
  - ③在宅や介護施設から病状悪化による入院の受け入れ。
  - ④施設基準の確保 ・在宅復帰率70%以上・看護必要度10%以上・リハビリ1日平均2単位以上  
・データ提出加算(27年1月取得予定)
- ※亜急性期病床14床を地域包括ケア病床14床に変更(病床数は今後の状況により変化する)

## 2. 機能強化型訪問看護管理療養の取得

- ①平成26年4月1日より機能強化型訪問看護管理療養費2の算定開始。
- ②平成26年5月1日より機能強化型訪問看護管理療養費1に変更。(ターミナル患者の増により5月1日より2を1に変更)  
※規模を拡大し、地域の在宅医療の充実を図る。

今後当院は、現在行っている高齢者認知症患者の入院受け入れを強化するとともに、地域包括ケアシステムの一躍を当院が担えるよう、地域の医療機関や介護施設等と連携を深め、それぞれの特徴を生かして共存共栄し、まだまだ不十分ですが、地域の皆様へ安心・安全な医療の提供ができるよう努力して参ります。



# 地域包括ケア病床のご紹介



- こんにちは。今回は内科病棟である3病棟と「地域包括ケア病床」について、ご紹介いたします。

当病棟は主に肺炎や脳梗塞の患者様が多く、急性期の治療を行なう病棟です。高齢者の特性として病気が長引いたり、再発を繰り返したりすることも多く、さらに複数の慢性疾患を併せ持つ傾向にあります。当院は、他の急性期の病院では入院継続が困難な軽度の認知症がある患者様の入院も受け入れ、対応を行なっています。

一般的には入院して治癒および軽快の状態に回復されると、退院となります。しかし高齢者においては自宅療養における介護保険サービス等の調整や、特別養護老人ホーム等への施設入所に向けた準備期間が必要になります。この準備期間に治療やリハビリを継続しながら療養して頂く病床を「地域包括ケア病床」として同じ病棟内にご案内しております。

このように安心して生活できる場所(環境)への支援がスムーズにいくように、入院された時から退院後の生活をイメージした看護(ケア)を行っております。

- お悩みのことや疑問に思うことなどありましたら、お気軽にお声かけください。



3病棟  
看護師長 職務代理  
おの の てつ お  
**小野哲雄**

## 地域医療連携室便り

地域医療連携室（医療相談室）  
医療ソーシャルワーカー  
おばなかずのり  
**尾花和憲**

### 地域包括ケア病床について

当院では、平成26年5月より地域包括ケア病床(18床)を開設しました。皆様からいただいた質問をご紹介いたします。

#### Q1. 地域包括ケア病床に入ったらリハビリはどうなりますか？

A. 地域包括ケア病床では、自宅・施設復帰に向けて、病状や住宅環境を考慮し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が連携しながらリハビリを行います。

#### Q2. 入院できる期限はありますか？

A. 病状によって入院期間は異なりますが、最長60日間となっています。

#### Q3. 自宅で生活したいので在宅ケアマネージャーを紹介してほしい。

A. ケアマネージャーについて、希望される方がいない場合には、予想される介護保険サービス等を考えて、ケアマネージャーを紹介します。

#### Q4. 自宅に帰れない場合は、施設を紹介できますか？

A. 自宅に帰る事が難しい場合、患者様の身体状況・家族要望をお伺いし、患者様に適した介護保険施設を紹介いたします。

当院では患者様・家族の相談窓口として地域医療連携室を設置しています。療養中の相談等がございましたら、お気軽に、1階エレベーター前、地域医療連携室までお越し下さい。





# ナースのまど

## ～訪問看護ステーション～



訪問看護ステーション管理者  
みぞ じり ち あき  
**溝尻千晶**

今津赤十字訪問看護ステーションでは、訪問看護師・理学療法士、ケアマネージャーが在宅生活の支援を行っております。スタッフは看護師9名（ケアマネージャー有資格者5名）、理学療法士2名（1名は病棟との兼任）です。

平成26年5月より「機能強化型訪問看護ステーションⅠ」（平成26年度診療報酬改定で新たに制定された制度）としての評価を受けました。この評価を受けるためには様々な要件があり、現在福岡市西区では当ステーションのみが取得しています。

「乳幼児から高齢者まで家族も含めて、医師と連携し疾病や障害の悪化予防、病院等からの在宅移行支援、在宅での看取りを行う」のが訪問看護です。

日本は高齢社会に突入し、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、医療提供体制や地域包括ケアシステムの構築が進められています。訪問看護ステーションは、これからのは在宅医療・ケアのニーズに応えるサービスのひとつです。

当ステーションでは、今津赤十字病院の医師をはじめ、主に福岡市西区・糸島市の病院・クリニックの医師・看護師・理学療法士・介護サービス事業所など他職種と連携し、訪問看護・訪問リハを行っています。

ご自身やご家族が病気になった時、どこで療養したいと思いますか？『住み慣れた自宅で過ごしたい』『できれば自宅に連れて帰りたい』『最期は病院ではなく、自分の家で迎えたい』…。そう思った時、何をしたらいいのだろう？とお困りではないでしょうか。

その時は、私たち『今津赤十字訪問看護ステーション』へご相談ください。緊急時には24時間対応できる体制で、病状の観察や医療的な処置をはじめ、清潔の援助、リハビリテーション、ご家族への介護支援や相談業務などを行っています。

今津赤十字訪問看護ステーションは、今津赤十字病院1階・外来の横にあります。  
電話でのご相談にも応じていますので、お気軽にご相談ください。

ご家族のこと、介護支援についてなど、  
お気軽にご相談ください。

**訪問看護ステーション直通電話**

**(092)806-2077**



# 福岡県総合防災訓練活動に参加して

3病棟 看護師

はま

なが

濱

永

ひとし

仁

6月1日、風水害や地震・津波災害を想定した「福岡県総合防災訓練」が苅田港南港地区ほか3ヵ所で行われました。

訓練には、県、苅田町および消防、警察、自衛隊、地域住民など約1200人が参加。わたしたち日本赤十字社からは、医師3名、看護師長1名、看護師5名、主事12名が訓練に参加しました。

携帯端末を使って、避難情報を送信する情報伝達訓練、ヘリコプターによる孤立者輸送訓練、空中消火訓練などを実施し、関係機関相互の連携について確認しました。

また、地域の皆さんや地元企業の方々参加による、初期消火訓練、津波避難ビルへの避難訓練、要援護者の避難誘導訓練や愛護動物の同行避難訓練が実施され、避難時の対応の確認が行われました。(以上、一部福岡県ホームページより抜粋)



訓練内容は、全部で35項目あり、わたしたちは、そのなかの訓練番号18「応急救護所設置運営・広域災害医療情報伝達訓練」に参加しました。

今津赤十字病院の救護班は、福岡赤十字病院・嘉麻赤十字病院と合同で赤十字医療救護班2個班を組織し、DMAT<sup>\*1</sup>5個班と救護所を運営しました。

私自身は、傷病者の手当、心のケア(傾聴や受容の態度を示すこと)、トリアージ<sup>\*2</sup>エリアの状況を冷静に判断し、主事へ人員配置の見直しを災害本部へ依頼するなど、落ち着いて情報伝達することができました。



わたしは、平成24年度に実施された、日本赤十字社九州八県支部合同訓練に参加した際、トリアージをはじめ、傷病者の手当を満足に実践することができませんでした。普段、医療・看護に従事していても、災害に対する備えがないと、實際には動けないことを痛感した苦い思い出です。

それ以降、災害医療・救護における自己研鑽を重ねてきた結果、実際さながらの訓練において、その成果を実感することができました。

今後も災害に対する意識を高く持ち、災害発生時には迅速で安心・安全な救護活動が実施できるように努力していきます。

## ※1 DMAT … Disaster Medical Assistance Team

医師・看護師・業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

## ※2 トリアージ … Triage

対応人員や物資などの資源が通常時の規模では対応できないような非常事態に陥った状況で、最善の結果を得るために、対象者の優先度を決定し選別を行うこと。

# 感染症にご注意!

感染防止対策委員会 看護師  
浜 永 仁  
はま なが ひとし

もうじき冬、空気が乾燥し、様々な感染症が猛威をふるう季節がきます。中でもインフルエンザはかぜ症状と似ているため、見過ごしてしまうと、特に高齢者や小さなお子さんは肺炎などを併発し重症化してしまう恐れがあります。そこで今回はインフルエンザについてその症状と予防方法を簡単にお話しします。

## インフルエンザと風邪の違い

通常のかぜは咳やのどの痛み、頭痛から始まり徐々に発熱しますが、インフルエンザは倦怠感や、関節痛が出現し、いきなり38℃台の高熱が出るのが一般的です、いずれにしても“ただのかぜ”と思わずに、病院で診察を受けることをお勧めします。

## インフルエンザにかかるない為には…？

### まずは予防が一番！

ここでは誰でもできる“効果的な手洗い方法”をご紹介します。



1. 時計をはずし、手をぬらす



2. 石鹼をとり、手のひらで泡立てる



3. 指の間を洗う



4. 手の甲と指の間に洗う



5. 反対の手のひらで指先を洗う



6. 反対の手で親指と手首をねじり洗い



7. 流水でよく洗い流す



- ★トイレの後
- ★食事前
- ★外から来た時
- 特に念入りに!!



### その他は…？

\* 流行前のワクチン接種：100%かからないとは言えませんが、かかった場合には重症化防止となります。

\* 適切な湿度を保つ：乾燥した環境ではウイルスが舞いやすい状態になり、呼吸とともに体内に入りやすくなります。加湿器など使い湿度計を使って適切な湿度(50%～60%)を保ちましょう。

\* 十分な休養とバランスのとれた食事を心がけ、抵抗力をつけましょう。

\* 人混みや繁華街への外出は控えましょう。

## 咳工チケット

咳工チケットとは、咳やくしゃみをする時、飛び散った唾液の中に病原体が含まれているかも知れない気をつけましょうという意味です。咳やくしゃみをする時は人から顔を反らし、ティッシュなどで鼻と口を覆いましょう。マスクを着用する習慣をつけることをお勧めします。



# 第5回 連携先リレー紹介

当院では、地域貢献として、地域にある介護保険施設との連携を大切にしています。このコーナーでは、リレー方式で各施設の方に登場していただき、連携について語っていただきます。第5回目は、特別養護老人ホームみなかぜさんです。

## 特別養護老人ホームみなかぜ

施設長 中村 浩 様

閑静な住宅街で商業施設も多くある中、周囲は緑豊かな山々を背景に、四季を感じることの出来る糸島市南風台に平成26年5月に地域密着型特別養護老人ホームとして、「みなかぜ」をオープンいたしました。

「みなかぜ」には、ゆっくりとくつろげる空間と快適で安全な生活を送って頂く全室個室のユニット型施設です。

特養 入所定員 29名、短期入所(ショートステイ)3名 小規模の施設のため、家庭的な雰囲気の中、入居者様お一人おひとりの生活ペースに合わせた生活のご支援をさせていただいております。

職員一同、入居者様の快適で安全な生活と、地域の皆様との繋がりを大切にした運営を目指しています。今津赤十字病院様とは協力医療機関として、入居者様の診察や施設のご紹介など日頃よりご協力をいただいております。



▲施設外観



▲居室

超高齢化社会の中、医療と介護の連携がますます重要となってまいります。

今後もよりよい関係を築き、地域の皆様が住み慣れた場所で生活できるように、運営してまいります。

## 浜崎地区夏祭りで「地域貢献」

毎年7月28日に、今津浜崎地区の熊野神社にて、夏祭りが催されています。今津赤十字病院も毎年、院長・事務部長をはじめ、地域での活動が大好きな職員による「あげタコ店」出店をしています。ご近所の方をはじめ、沢山の方との交流を通して、とても楽しい時間を過ごす事ができ、また、参加している職員も浜崎地区の一員であると強く実感する事ができました。来年も出店し、地域のために貢献できたらと思います。



地域医療連携室 郷司 陽平



## 診療案内

- ◆診療科目／内科・精神科(認知症)・神経内科・胃腸科・循環器科・リハビリテーション科・放射線科
- ◆受付時間／(月曜日～金曜日)午前8時30分～午前11時30分及び午後1時30分～午後3時30分
- ◆休診日／土曜・日曜・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、日本赤十字社創立記念日(5月1日)
- ※ご不明な点がございましたら、お気軽に病院までお問い合わせください。

## 今津赤十字病院 外来診療担当表

平成26年10月1日から

診療科目		月	火	水	木	金	土	日
内科	午前	初診	当番医	尾前・当番医	関 拓紀	九大病院医師	当番医	
		尾前 豪	藤井 弘二	藤井 弘二	藤井 弘二(生活習慣病)	藤井 弘二		
		再診	納富 昭光	尾前 豪	市島 久仁彦	市島 久仁彦		
				古瀬 正徳				
	午後(初診及び再診)	古瀬 正徳	市島 久仁彦	関 拓紀	九大病院医師	尾前 豪		
精神科	午前 (再診のみ)	田中 和宏	牧 篤	勝治 一夫	田中 和宏	牧 篤	デイケア のみ	デイケア のみ
	午後 認知症外来 (新患・予約制)	田中 和宏	田中 和宏	田中・勝治	田中 和宏	田中 和宏		
		牧 篤	牧 篤	牧 篤		牧 篤		

## 交通アクセス

### ◆JRでのアクセス

- JR九大学研都市駅下車の場合  
JR九大学研都市駅南口前より病院無料送迎バスをご利用ください。  
(下記時刻表を参照ください)

- JR今宿駅下車の場合  
昭和バス「今宿駅前」バス停より、「西の浦行き」乗車、「日赤入口」バス停下車、徒歩10分

### ◆お車でのアクセス

- 西九州自動車道今宿ICより約10分



## 無料送迎バス

- ◆送迎時刻表／JR九大学研都市駅南口前より、無料送迎バスを運行しておりますので、お気軽にご利用ください。

便	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
病院→JR九大学研都市駅南口前	8:55	9:35	10:15	10:55	11:30	12:15	12:55	13:35	14:15	14:55
JR九大学研都市駅南口前→病院	9:15	9:55	10:35	11:20	11:55	12:35	13:15	13:55	14:35	15:15
運行日	平 日	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	土日祝祭日	—	○	○	○	○	—	—	○	—

※平成25年11月8日改正



JR九大学研都市駅南口前です。



今津赤十字病院

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

〒819-0165 福岡市西区今津377番地  
TEL(092)806-2111(代表) FAX(092)806-2314  
ホームページ <http://www.fukuoka.jrc.or.jp/imazu/>

広報誌／今津日赤よりvol.21  
発行日／平成26年10月16日  
発行責任者／藤井 弘二  
編集委員長／西藤 彰信  
発行／今津赤十字病院

表紙写真／今津の夕暮れ